

家庭科, 技術・家庭科(家庭分野)に関する資料

小学校家庭科に関する学習指導要領の変遷

「家庭科」授業時数

昭和33年改訂

内容（4領域）

A 被服

B 食物

C すまい

D 家庭

第5学年70単位時間

第6学年70単位時間

昭和43年改訂

内容（4領域）

A 被服

B 食物

C すまい

D 家庭

第5学年70単位時間

第6学年70単位時間

昭和52年改訂

内容（3領域）

A 被服

B 食物

C 住居と家族

第5学年70単位時間

第6学年70単位時間

平成元年改訂

内容（3領域）

A 被服

B 食物

C 家族の生活と住居

第5学年70単位時間

第6学年70単位時間

平成10年改訂

内容（8項目）

(1)家庭生活と家族

(5)簡単な調理

(2)衣服への関心

(6)住まい方への関心

(3)生活に役立つ物の製作

(7)物や金銭の使い方と買物

(4)食事への関心

(8)家庭生活の工夫

第5学年60単位時間

第6学年55単位時間

小学校家庭科と中学校家庭分野の学びの系統性

平成20年改訂

内容

A 家庭生活と家族

B 日常の食事と調理の基礎

C 快適な衣服と住まい

D 身近な消費生活と環境

第5学年60単位時間

第6学年55単位時間

中学校技術・家庭科（家庭分野）に関する学習指導要領の変遷

昭和33年改訂

必修教科「技術・家庭（女子向き）」の内容（領域）
調理，被服製作，家庭機械・家庭工作，設計・製図，保育

「技術・家庭」授業時数
各学年必修105時間
選択教科：各学年70時間

昭和44年改訂

必修教科「技術・家庭（女子向き）」の内容（領域）
被服，食物，住居，家庭機械，家庭電気，保育

各学年必修105時間
選択教科：第1，2学年35時間
第3学年 70時間

昭和52年改訂

履修領域を男女別に示す（いわゆる「相互乗り入れ」）

「技術・家庭（家庭系列）」の内容（領域）
F 被服1・2・3 G 食物1・2・3 H 住居 I 保育
（家庭系列 8 領域から5領域，技術系列 9 領域から 1 領域を含めて，7 領域以上を履修）

第1・2学年 70時間
第3学年 105時間
選択教科：第3学年35時間

平成元年改訂

履修領域に男女の差を設けない

「技術・家庭（家庭領域）」の内容（領域）
G 家庭生活 H 食物 I 被服 J 住居 K 保育
（全員必修 4 領域（ABGH）＋選択 3 領域の 7 領域以上を履修）

第1・2学年 70時間
第3学年70～105時間
* ABGHは35時間，それ以外は
20～30時間が標準
選択教科：第2・3学年

平成10年改訂

「家庭分野」の内容
A 生活の自立と衣食住 B 家族と家庭生活
（(1)～(4)は必修，(5)(6)のうち，1又は2選択）

第1・2学年70時間
第3学年 35時間
選択教科：第1学年～3学年

平成20年改訂

選択教科としての技術・家庭科の廃止
小学校家庭科と中学校家庭分野の学びの系統性

「家庭分野」の内容
A 家族・家庭と子どもの成長 B 食生活と自立
C 衣生活・住生活と自立 D 身近な消費生活と環境
「生活の課題と実践」の3つの指導事項のうち，1又は2選択

第1・2学年70時間
第3学年 35時間

高等学校家庭科に関する学習指導要領の変遷

昭和35年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 普通科女子は4単位必履修

（1）家庭生活と家庭経営（2）計画的な経済生活（3）能率的な家庭生活（4）食生活の経営（5）衣生活の経営（6）住生活の経営（7）乳幼児の保育（8）家庭生活の改善向上

昭和45年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

（1）家族と家庭経営（2）家族の生活時間と労力（3）家庭の経済生活（4）食生活の経営（5）衣生活の経営（6）住生活の経営（7）乳幼児の保育

昭和53年改訂（告示）→『家庭一般』4単位 すべての女子は4単位必履修

（1）家庭生活の設計・家族（2）衣生活の設計・被服製作（3）食生活の設計・調理（4）住生活の設計・住居の管理（5）母性の健康・乳幼児の保育（6）ホームプロジェクト・学校家庭クラブ

平成元年改訂（告示）→「家庭一般」「生活技術」「生活一般」から1科目4単位を**全員必履修**

「家庭一般」内容：（1）家族と家庭生活（2）家庭経済と消費（3）衣生活の設計と被服製作（4）食生活の設計と調理（5）住生活の設計と住居の管理（6）乳幼児の保育と親の役割（7）ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ活動

平成11年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活技術」4単位から1科目を**全員必履修**

「家庭基礎」内容：（1）人の一生と家族・福祉（2）家族の生活と健康（3）消費生活と環境（4）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「家庭総合」内容：（1）人の一生と家族・家庭（2）子どもの発達と保育・福祉（3）高齢者の生活と福祉（4）生活の科学と文化（5）消費生活と資源・環境（6）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

平成21年改訂（告示）→「家庭基礎」2単位「家庭総合」「生活デザイン」4単位から1科目を**全員必履修**

「家庭基礎」内容：（1）人の一生と家族・家庭及び福祉（2）生活の自立及び消費と環境（3）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「家庭総合」内容：（1）人の一生と家族・家庭（2）子どもや高齢者とのかかわりと福祉（3）生活における経済の計画と消費（4）生活の科学と環境（5）生涯の生活設計（6）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「生活デザイン」内容：（1）人の一生と家族・家庭及び福祉（2）消費や環境に配慮したライフスタイルの確立（3）食生活の設計と創造（4）衣生活の設計と創造（5）住生活の設計と創造（6）ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）改訂の趣旨

○ 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の改善の基本方針

- ・自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善
- ・家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視
- ・食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実
- ・実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習をより一層充実
- ・学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容を改善

○ 小学校家庭の改善の具体的事項

- ・中学校の内容との体系化を図り、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から、①家庭生活と家族、②食事のとり方や調理の基礎、③快適な衣服と住まい方、④身近な生活と消費・環境に関する内容で構成
- ・社会の変化に対応し、a 家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にすることを旨とした学習活動を一層充実 b 食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視、身の回りの生活における金銭の使い方や物の選び方、環境に配慮した物の活用などの学習について、他の内容との関連を明確にし、実践的な学習活動を更に充実
- ・家庭生活を総合的にとらえる視点から、家族の生活と関連させながら衣食住などの内容を取り扱うことを一層重視。小学校第4学年までの学習を踏まえた2学年間の学習のガイダンス的な内容を設定、他教科等との関連を明確化

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）改訂の趣旨

○ 中学校技術・家庭（家庭分野）の改善の具体的事項

- ・小学校の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から、①家族・家庭と子どもの成長、②食生活の自立、③衣生活と住生活の自立、④家庭生活と消費・環境に関する内容で構成し、すべての生徒が履修
学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくむ視点から、家族・家庭や衣食住などの内容に生活の課題と実践に関する指導事項を設定し、選択して履修
- ・社会の変化に対応し、a 家庭の機能を理解し、人とよりよくかかわる能力の育成を目指した学習活動を一層充実、幼児への理解を深め、子どもが育つ環境としての家族と家庭の役割に気付く幼児触れ合い体験などの学習活動を更に充実
b 食生活の自立を目指し、中学生の栄養と献立、調理や食文化などに関する学習活動を一層充実、家庭生活と消費・環境に関する学習については、他の内容との関連を明確にし、中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を更に充実
- ・小学校の学習を踏まえた中学校での学習のガイダンス的な内容を設定するとともに、他教科等との関連を明確化

○ 高等学校家庭の改善の具体的事項

- ・家庭を築くことの重要性、食育の推進、少子高齢社会への対応、日本の生活文化にかかわる内容を重視
- ・高校生の発達課題と生涯生活設計、キャリアプランニングなどの学習を通して、次世代を担うことや生涯を見通す視点を明確化。生涯賃金や働き方、年金などとの関係に関する指導などを加え、生活を総合的にマネジメントする内容を充実。その際、生涯にわたる生活経済や多重債務等の深刻な消費者問題、衣食住生活と環境とのかかわりなどを科学的に理解させるとともに、社会の一員として生活を創造する意思決定能力を習得させることを明確化
- ・ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動については一層充実
- ・「家庭基礎」においては、青年期の課題である自立と共生の能力をはぐくみ、生活設計の学習を通して、衣食住の科学的な理解を深め、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力や態度を育てることを重視
- ・「家庭総合」においては、生命の誕生から死までの生涯を見通し、親の役割や子育て支援、人間の尊厳や高齢者の肯定的理解、介護、衣食住生活と生活文化や消費生活と資源・環境などについて総合的に扱い、実験・実習を通して科学的に理解を深めるとともに、主体的に家庭や地域の生活をマネジメントする力を育てることを重視
- ・「生活デザイン」においては、実験・実習を通して生活の技術的、文化的な意味や価値への理解を深め、将来の生活を設計し創造する力を育てるとともに、食育を推進するための実践力を高めることを重視した上で、一部の項目については選択して履修できるように構成

小学校家庭科における実践的・体験的な学習

◆調理や製作の実習等…実験・実習等を通して、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、日常生活で活用する。



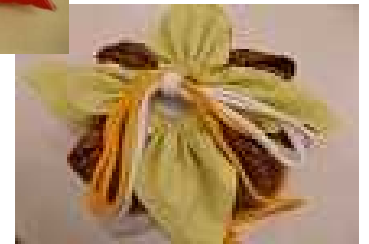
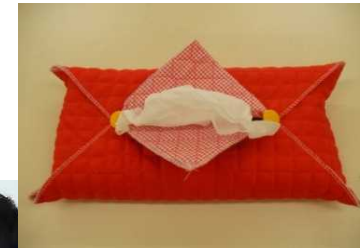
ゆでる・いためる調理の実験・実習



1人またはペアでの調理実習
(野菜いため)



ミシンの使い方・縫い方の実習

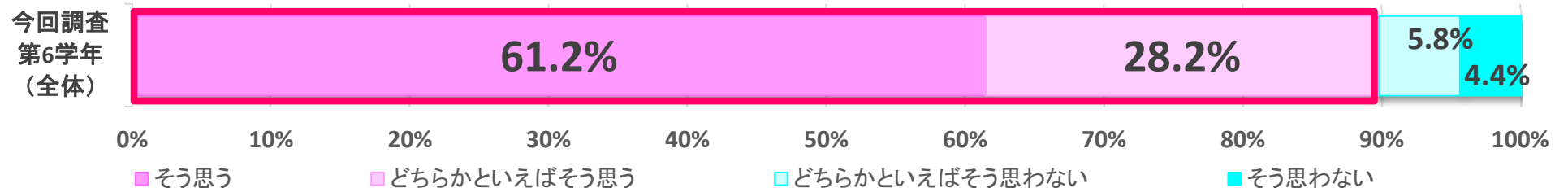


ミシンを用いた
生活に役立つものの製作例

◆多くの児童は、家庭科の学習が調理や製作など生活に必要な力を身に付けることに役立つと捉えている。

○ 家庭科の学習は、調理や製作など生活に必要な力を付けるために役立つと思いますか。

肯定的回答をした児童の割合→**約9割**



※【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】の結果

中学校技術・家庭科(家庭分野)における実践的・体験的な学習

◆幼児と触れ合う活動・・・幼児に関心を持ち、幼児の発達と生活、遊びの意義について理解し、関わり方を工夫する。



幼稚園や保育所等での
幼児と触れ合う活動

幼児と触れ合う活動 生徒の感想

- ・背の高さも体重も、**幼児によって発達に差がある。**
- ・幼児によって、**興味をもつ遊びは、様々だった。**
- ・**自分もこんなに小さかった時があったんだと思った。**
- ・**親は、きっと、大変な思いをして育ててくれたのだろうな。**



製作した遊び道具で
幼児と関わる



幼児を学校に招いての
触れ合う活動

◆地域の食材を生かした調理実習・・・調理実習を通して、地域の食文化に関心を持ち、その意義について理解する。



郷土料理の調理実習



行事食の調理実習



地域の食材を用いたお弁当



コンクールに応募したお弁当

高等学校家庭科における実践的・体験的な学習

◆乳幼児との交流…子供を育てる視点から、子供を生み育てることの意義や子供と関わることの重要性を学ぶ。



乳児親子交流会

乳児親子交流会 生徒の感想

泣いている赤ちゃんをあやしながら質問に答えてくれるお母さんをみてすごいなと思った。また、実際に抱いてみて、結構重くて少し長く抱いていると手が疲れるほどだった。この二つのことから、子供を育てていくことは喜びもたくさんあるけれど、大変なこともたくさんあって責任がともあることだと、今までで一番実感した。



オムツ替えに挑戦



母子手帳やエコー写真を見て
小さな命を実感

◆高齢者との交流…地域の方を講師として招聘したり、施設訪問をしたりして高齢者に対する理解を深める。



郷土料理の講習会



施設訪問



高齢者疑似体験



工業高校生が車いすを修繕

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）に関する現状について

児童生徒の意識や現状

※【 】内は参考にしたデータ等

①小・中・高校生のいずれも家庭科学習への関心や有用感が高い

- ・「ふだんの生活や社会に出て役立つ」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合はいずれも約9割。
【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】【平成19年度特定の課題に関する調査（中学校）】（共に国立教育政策研究所）
- ・「家族やとなり近所に住んでいる人々と協力して生活していくために大切」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は8割。
- ・「将来生きていく上で重要」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は約8割。【平成24年理系文系進路選択にかかわる意識調査】

②社会の変化に対応する能力が身に付いてきている

- ・物や金銭の計画的な使い方や目的に合った物の選び方の工夫については、通過率が高い。「日本の伝統的な生活の仕方を大切に思うようになりましたか」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は8割以上。【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・幼児と触れ合う活動を通して、「幼児が好き」「興味・関心がある」などの質問に肯定的な回答をした生徒が増加。
- ・子供は男女で協力して育てることや子育ての意義や親の役割などの質問に肯定的な回答をした生徒が多い。【平成19年 日本家庭科教育学会】

③知識・技能を活用して生活の課題を解決する能力や実践力を身に付けることに課題

- ・栄養のバランスを考えた1食分の献立や、環境に配慮して物を無駄なく使うための工夫等については、通過率が低い。
【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・「分担した家庭の仕事をしていますか」の質問に肯定的な回答をした児童は約6割。【平成25年度全国小学校家庭科教育研究会調査】
- ・「学習した調理などを家庭でもやってみようとする」の質問に肯定的な回答をした生徒は約6割。【平成19年度特定の課題に関する調査（中学校）】

④家庭や社会とのつながりを考え、人と関わる力を高めることに課題

- ・家族の一員として協力することへの関心については、通過率が低い。【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・家族との具体的な関わり方の工夫については、通過率が低い。【平成19年度特定の課題に関する調査（中学校）】
- ・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」を通して、家族や地域の人々と関わり、社会に参画することが十分ではない。【平成19年 日本家庭科教育学会】

教師の指導の現状

- ・「問題解決的な学習を取り入れた授業を行っている」と肯定的に回答した教師の割合は5割程度。
【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】【平成19年度特定の課題に関する調査（中学校）】
- ・身に付けさせたい基礎的・基本的な知識や技能を明確にした適切な実習題材の設定、科学的な根拠に基づいて理解させる指導が十分ではない。
【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・児童の生活経験の不足や、家庭での実践が十分ではない現状が見られ、「繰り返して知識や技能の定着を図る活動を取り入れた授業を行っている」の質問に肯定的な回答をした教師の割合は8割以上。【平成25年度全国小学校家庭科教育研究会調査】【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】

家庭科目の今後の在り方について（検討素案）

〈成果〉

- ・女子のみ履修であった高等学校の家庭科は、平成6年度から男女必修となり21年が経過した。「家庭科は実生活に役立つ」、「家庭科を学習してよかった」と、生徒は肯定的に捉えている。
- ・「将来生きていくために重要な科目である。」という意識も高い。

〈課題〉

- ・生活体験が減少している生徒に対して、実験や実習等を取り入れ、現実の生活の中で活用するための実践力や応用力を身に付ける必要がある。
- ・生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践するといった問題解決的な学習が効果的に行われていない。

[学習方法や資質・能力に関する課題]

- ・生活者として自立し、社会に参画するために必要な知識や技術を科学的な根拠に基づいて身に付ける必要がある
- ・問題解決的な学習において、「何を問題とし」「どう解決するのか」について、生徒の興味・関心を踏まえた学習になっていない。

[学習内容の課題]

- ・将来を見通した生活設計に必要な生活の課題(就職・結婚、各ライフステージで想定される生活上のリスクへの対応方法等)についての内容を充実する必要がある。

家庭科で育成する資質・能力の育成

- 生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力を育成する
- 生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力

◆少子高齢社会に対応する力
(子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力)

◆生活課題を解決するために必要な社会参画力、コミュニケーション能力(地域コミュニティを構築)

◆持続可能な社会を構築する力
(消費・環境に配慮したライフスタイルの確立)

◆グローバル化に対応する力
(衣食住の生活文化の継承・発信)

〈検討の方向性(案)〉

共通必修科目の在り方

- 社会の変化への対応
 - ・少子高齢社会を踏まえ、乳幼児や高齢者を支えるために必要な知識や技術、コミュニケーション能力を育成
- 生涯を通して、自他の生命を守る衣食住生活の実践力を育成、食育の充実（例 生活習慣病を予防するために生涯を見通して食生活を営む力、災害時等の生活上のリスクに対応した衣食住の知識や技術 等）

- 生活者の視点を踏まえた消費者教育の充実(生活情報を収集し、適切に意思決定する力を育成) ※公民科における新科目の在り方と連携
- 地域との交流等を通して社会に参画する力を育成
- 衣食住の生活文化の継承(例 和食、和装、生活を豊かにするもてなし 等)